

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 10年1月

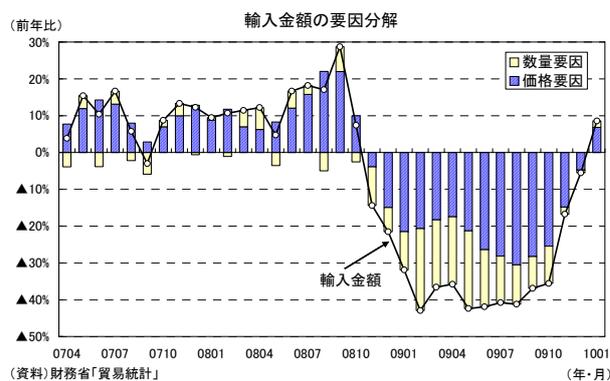
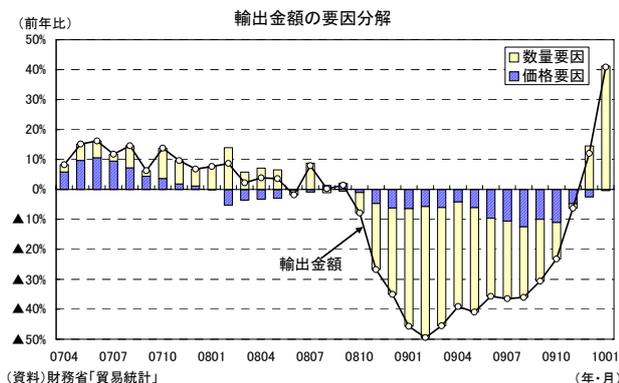
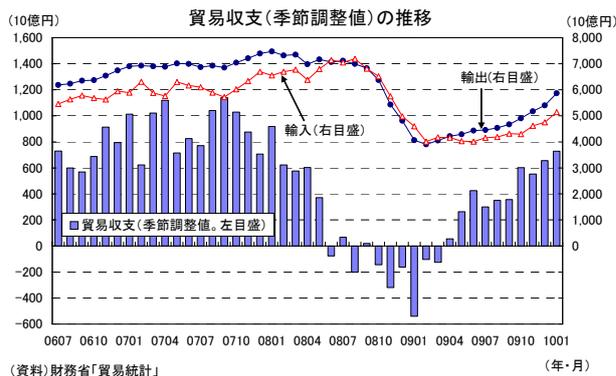
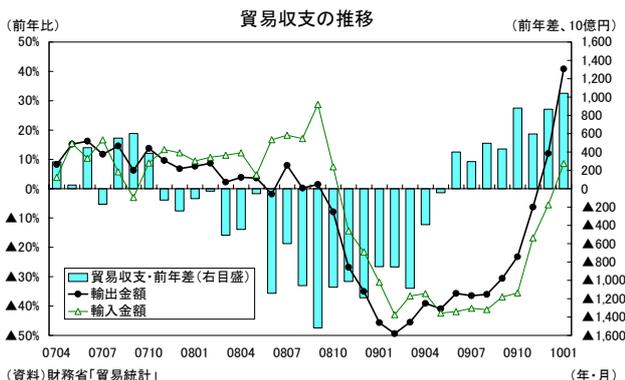
～リーマン・ショック後の落ち込みの反動で 輸出の伸びが急加速

経済調査部門 主任研究員 齋藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 輸出入ともに増加

財務省が2月24日に公表した貿易統計によると、1月の貿易収支は852億円の黒字となり、事前の市場予想（ロイター事前予想：▲1,085億円、当社予想は1,098億円）を上回った。リーマン・ショック後の急速な落ち込みの反動から、輸出の伸びが前年比40.9%（12月：同12.0%）と急加速し、輸入は前年比8.6%（12月：同▲5.5%）と15ヵ月ぶりの増加となった。季節調整済の貿易収支は7,284億円と10ヵ月連続の黒字となり、黒字幅は前月の6,559億円から拡大した。



輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比41.3%（12月：同14.7%）、輸出価格が前年比▲0.3%（12月：同▲2.3%）であった。輸入の内訳は、輸入数量が前年比1.7%（12月：同▲0.8%）、輸入価格が前年比6.8%（12月：同▲4.8%）であった。

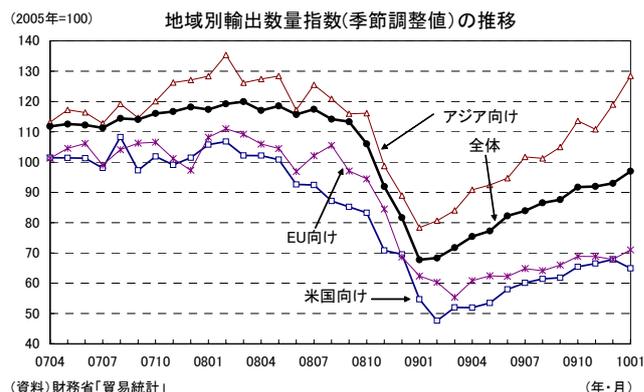
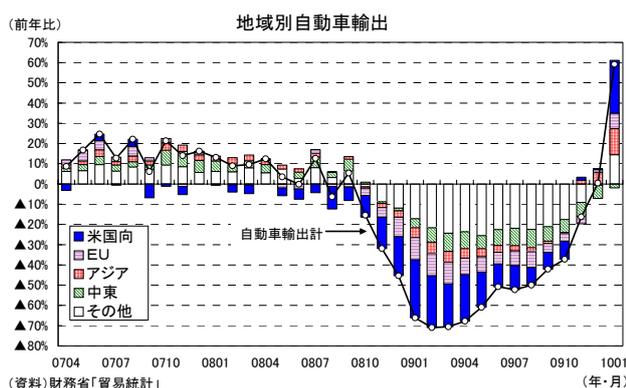
2. 米国向けの自動車輸出は倍増

自動車輸出は前年比 59.2% となり、12 月の同 0.5% から増加幅が急拡大した。中東向け（12 月：前年比 ▲31.1% → 1 月：同 ▲8.5%）、ロシア向け（12 月：前年比 ▲63.0% → 1 月：同 ▲0.6%）の減少幅が縮小したことに加え、米国向け（12 月：前年比 1.7% → 1 月：同 128.4%）、EU 向け（12 月：前年比 14.0% → 1 月：同 53.4%）、アジア向け（12 月：前年比 61.8% → 1 月：同 128.3%）の伸びが急加速した。ただし、前年比で見た伸びが高いのは昨年の急速な落ち込み（09 年 1 月の自動車輸出の前年比は世界向けが ▲66.1%、米国向けが同 ▲80.7%）の反動によるところが大きい。今月の自動車輸出の水準を 2 年前（08 年 1 月）と比べると、全体では 5 割強、米国向けは 4 割強にとどまっている。また、2 月以降はトヨタのリコール問題による影響が表れてくることが懸念される。

1 月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比 18.2%（12 月：同 ▲2.4%）、EU 向けが前年比 14.1%（12 月：同 ▲1.5%）、アジア向けが前年比 63.6%（12 月：同 32.9%）となった。米国向けは 08 年 2 月以来 1 年 11 ヶ月ぶり、EU 向けは 08 年 8 月以来 1 年 5 ヶ月ぶりに上昇に転じた。

地域別の輸出数量指数を季節調整値（当研究所による試算値）で見ると、米国向けが前月比 ▲4.4%、EU 向けが同 4.6%、アジア向けが同 8.0%、全体では同 4.3% となった。なお、1 月のアジア向け輸出は旧正月（春節）の影響（昨年は 1 月下旬だった旧正月が今年は 2 月中旬）で実勢よりも強めに出ている可能性がある。アジア向け輸出の実勢を見るためには 1 月、2 月を均して見る必要があるだろう。

輸入数量指数（季節調整値）は前月比 3.9% と 3 ヶ月連続の上昇となった。GDP 統計の輸出入（財貨・サービス）は 09 年 7-9 月期、10-12 月期と 2 四半期続けてともに増加したが、海外経済の回復を背景とした輸出の増加、国内需要の持ち直しに伴う輸入の増加基調は年明け以降も維持されていると判断される。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。